

第487回 三水会便り

イベントはしばらく中止。変わりありませんか。 メール等を使って情報交換しませんか

新型コロナウイルスによる感染拡大の先行きがつかめません。非常事態宣言が一举に解除できるとは思えません。長期戦になる覚悟が必要のようです。例会・現地集会を中止せざるを得ませんが、「三水会たより」は継続していきたいと思います。これを機会に、とおきのお話を互いに披露しようではありませんか。いまでこそ話せること、懐かしい思い出などをお寄せください。みなさんの原稿を掲載します。

懐かしい話/第一報

伝之助小屋を拠点に平ヶ岳、荒沢岳などに登る

皇太子殿下の登山で身近になった平ヶ岳

記録によると、平ヶ岳には3回登っている。最初は1992年7月だった。銀山平の伝之助小屋に宿泊した。係りは片岡博・尾身茂会員。三水会のなかの元気な会員が武四会をつくり、その2回目の例会だった。4年前の10月に皇太子殿下が平ヶ岳に登った。そのころ平ヶ岳は、アプローチも登山道も長く簡単に登れるところではなかった。登り3日・下り2日の5日間を費やした。その後、アプローチはずいぶんよくなったが、登山口から頂上まで往復12時間あまり。山小屋はなく幕営も禁止。最後まで歩き通す覚悟が必要だ。ところが、皇太子殿下は北面側の中ノ岐林道を利用して登った。地元関係者の協力で林道・登山道が整備され、所要時間7時間だった。殿下にとって26番目の深田百名山だった。しばらくたって、一般登山者も利用できる、という話を聞いた。「皇太子ルート」、「宮様ルート」、「プリンスルート」と呼ばれているという。



見逃すわけがない。片岡先生に伝之助小屋を紹介してもらった。

平ヶ岳は、利根川・只見川源流の最高峰(2,141m)だ。15年に高頭仁兵衛が人夫4名を雇い大白沢から登頂した記録がある。その名のとおり、山頂部は平坦だ。湿原と池塘が広がっている。大河の源流とはとても思えない。原っぱのなかで思い切り背を伸ばし深呼吸した。気持ちがいい。花崗岩の大きな丸い岩が台座のうえに乗っかっていて、それは“玉子石”と名付けられていた。係りをお願いした片岡先生は14(大正3)年、九州・門司の生まれ。七高・九大から鉄道省に進み、国鉄大井工場次長、営業局開発部長、新潟支社長などを歴任した。山菜に詳しく、「山菜記」、「続山菜記」を出版、広く“山菜博士”といわれていた。越後の山をいくつも紹介していただいた。「山菜は、少し気を付ければ、なんでも食べられますよ。ただ、おいしくない」と、にやりと笑うのが常だった。

五年間にわたって伝之助小屋を利用、トンネル越え未丈岳へ

三水会/武四会は、この年から五年間にわたって伝之助小屋を利用した。登ったのは、92年に続いて93年も平ヶ岳と荒沢岳、94年は荒沢岳と越後駒ヶ岳、95年は平ヶ岳、96年は未丈ヶ岳。参加者は毎年20人を超えた。「前は参加できなかった。もう一度企画してほしい」、「いや何回のぼつても」と参加者が続いた。小屋とは、すっかりお馴染みとなった。最後の未丈岳へは、小屋の車で奥只見シルバーラインのトンネルのなかにはいり、わずかな切れ目から飛び出し登山口に出た。只見ダムを作るための資材運搬専用道路とし

て建設された。19のトンネルが続き全長22kmのうち18kmがトンネルだ。溪谷を渡渉した。流れは速く、女性も、小尾のご主人におんぶしてもらい渡った。

寝室にあった開高健の色紙/釣りの話には“両手を縛れ”

伝之助小屋は、釣り人に親しまれていた。寝室に掛けられた色紙に「釣りの話をするときは、まず両手を縛れ」とあった。自ら成果を披露するとき、つい両手を広げる。「これぐらいあったかな。いや、もっと大きかったかもしれない。これぐらいだった」・・・と、みるみる手は広がっていく。その通りだ。実際に経験があるから、気持ちはよく分かる。最後に「開高健」と書いてあった。納得した。

只見川の溪流釣りは4/21に解禁となり9/30まで。イワナ、ヤマメ、サクラマスなどが釣れるそう。ネットで調べると、かつて“うじゃうじゃ”状態で生息していたという。サクラマスのオスは、秋になると真っ赤な婚姻色になり釣り人の憧れだった。大物になると50センチくらい、オスは60センチを超えるものもいるといわれた。昭和40年ごろから全国から釣り人が殺到。めっきり少なくなり、いまは漁協でイワナ、ヤマメなどを放流している。

北ノ又川の石抱橋のたもとに石碑が建っている。「河は眠らない」と開高健が書いた大きな字が刻まれている。開高健は、70年夏に銀山平を訪れ長期間滞在した。イワナの減少に危機感をもった地元住民や都市住民が、魚が根絶やしになる前に、と昭和50年に結成したのが「奥只見の魚を育てる会」。その永代会長として開高健が就任した。



三水会便り 第487回 発行2020年5月1日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 北口マリ子, 山口延子, 文責/高橋重之